

「たんぽぽ計画」でのISS上での微生物採集計画

東京薬科大学生命科学部

玉川大学農学部

横浜国立大学大学院工学研究科

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部

千葉大学理学部

会津大学

「たんぽぽ」ワーキンググループ

山岸明彦、河口優子、杉野智弘、**Yinjie Yang**、横堀伸一

吉村義隆、辻堯

小林憲正、藤崎健太

田端誠、長谷川直、橋本博文、矢野創、山下雅道

河合秀幸

奥平恭子

Capture experiment of microbes on ISS proposed in “Tanpopo” mission

Akihiko Yamagishi, Yuko Kawaguchi, Tomohiro Sugino, Yinjie Yang, Shin-ichi Yokobori

Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, Horinouchi, Hachioji, Tokyo 192-0392, Japan

Yoshitaka Yoshimura, Takashi Tsuji

6-1-1 Tamagawagakuen, Machida, Tokyo 194-8610

Kensei Kobayashi, Kenta Fujisaki

Yokohama National University, Hodogaya-ku, Yokohama 240-8501

Makoto Tabata, Sunao Hasegawa, Hirofumi Hashimoto, Hajime Yano, Masamichi Yamashita

ISAS/JAXA, 3-1-1 Yoshinodai, Sagamihara-shi, Kanagawa 229-8510

Hideyuki Kawai

Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba, Chiba 263-8522

Kyoko Okudaira

The University of Aizu, Aizu-Wakamatsu City, 965-8580

Tanpopo WG

Terrestrial microbes may be ejected to outer space by natural events such as volcanic eruption and meteorite impact. Microbes have been collected at high altitude up to several tens km using balloons and aircrafts. Some of the sampled microbes showed the high UV-resistance. To test the possible interplanetary migration of terrestrial life, we propose the microbe sampling experiments on International Space Station (ISS) at low Earth orbit (400 km). Ultra low-density aerogel will be exposed to space to capture micro-particles. After the curation of tracks and particles on the aerogel, the samples will be distributed to scientists to examine mineralogical, organo-chemical and microbiological characteristic of the particles. For the microbiological analysis, samples will be stained with DNA-specific fluorescence-pigment, and will be inspected with a fluorescence microscope. The fluorescent particles will be used for PCR amplification of the rRNA sequence followed by cloning and DNA sequencing. The sequence will be used to estimate the origin and properties of the captured microbes.

生命は地球と他の地球外天体との間を移動したという考え方、すなわち地球外に生命の起源を求める「パンスペルミア仮説、胚種広布仮説(panspermia)」は、生命の起源の議論のなかで古くから主張されてきた(Arrhenius (1908); Crick (1981))。火星由来の隕石中に微生物様の構造が見つけたことで、この仮説が再び脚光を浴びた。またこのことが事実であれば、逆に、地球上に生まれた生物が隕石の衝突や火山の巨大噴火により地球の重力を振り切り飛び出す可能性も否定できない。このような可能性を検討するため、我々はこ

れまで、高々度における航空機と気球を用いた微生物採集実験を行い、採集された微生物の解析を進めてきた(Yang et al. (2008a, 2008b, 2009, 2010))。ISS(国際宇宙ステーション)を用いることで、微生物採集高度を地球周回低軌道(約 400 km)にまで広げることができ。また、地球から脱出した微生物が存在するとして、それが他の天体までの移動の間、宇宙空間環境で生存することができるのかをテストすることも重要な研究テーマである。そのため、我々はISS曝露部上で、微生物が宇宙空間で長期に生存するための条件の検

討を行うことを、ISS暴露部上での微生物採集と合わせて提案する。

生命の起源に関して他の重要な問題として、有機化合物の前生物的生成がある。地上での汚染の無い惑星間微小粒子の直接採取実験を行うことで、この可能性を直接検証できる可能性がある。さらに、地球外で生成した有機化合物が宇宙空間の環境下でどの程度変成するのかを推定することも重要な研究課題である。この目的で、ISS 上で模擬複雑有機化合物を直接宇宙空間に曝露し、その変成過程と変成によって生じる物質の解析を行うことも提案する。

我々は、これらのサブテーマを包含するミッションを「TANPOPO」と命名し、JEM/ISS の曝露部における実験ミッションとして提案した。これは、たんぼぼの綿毛のついた種子が風に乗って新天地に運ばれることを地球と地球以外の天体の間で生命や生命の材料物質が移動することに擬えて命名したものである。

1.宇宙空間での微生物捕集／微生物暴露実験

ISS の上の微生物/微粒子捕集は、真空環境下で行うため、航空機/気球を使用した従来の捕集実験とは全く異なる採集方法を必要とする。ISS暴露部でのサンプリング実験では、超低密度エアロゲルを使う予定である。TANPOPOミッションの千葉大学グループは、超低密度エアロゲルを作成する技術を有する。同じ方法で作成した日本製のエアロゲルは既に、微粒子サンプリング実験のために ISS Russian Service モジュールで使われた。エアロゲルトレイの基本的なデザインは、JAXA による MPAC-SEED でもテストされた。

微生物が ISS 高度で存在するなら、それらは地球周回軌道速度を持たなければならない。エアロゲルに対する微生物の相対速度は、ISS の進行方向と微生物の進行方向に依存し、これらが正反対の場合に最高の値 16km/s となる。事前に蛍光色素で標識した微生物を含んだ粒子を 2 段階軽ガス銃で 4 km/s で加速し、エアロゲルに衝突させた。エアロゲルの蛍光顕微鏡観察により、蛍光を発する微小粒子がエアロゲルの衝突トラック内に見いだされた(山岸他 2007; Yamagishi et al. 2008)。

宇宙空間での微生物の生存可能性を考える場合には強力な紫外線や放射線照射も重要なポイントである。単一の微生物の細胞が強い紫外線照射下で生存することは考えられない。しかし、微生物が鉱物内に包み込まれている場合、微生物が生存する可能性は高いと考えられる。また、そのような条件下では、放射線の微生物生存に対する影響も変化することが期待される。予備的な実験では、模擬微粒子としての粘土鉱物と混

合した微生物は、混合しないものと比較し、 γ 線照射下での生存率の上昇が見られる。

また、地球由来の生物の存在を最も感度良く検出する手法は、PCRを用いたDNAの増幅である。すべての生物が持つ小サブユニットリボソーム遺伝子を増幅するプライマーを用いて、捕集した微粒子内の微生物に由来する小サブユニットリボソーム遺伝子の増幅を試みる計画である。いったん小サブユニットリボソーム遺伝子が増幅されれば、その塩基配列を解読することで、その生物の分類学的位置を推定することができる。そこから、どのような生物なのかその特徴を推測することができる可能性がある。

2.微小隕石様粒子の ISS 上での捕集

隕石の観察と収集は惑星科学の研究の中で、その母天体の研究を行うために進められてきた。黄道帯のダスト雲は地球表面からも観察できる。宇宙塵は南極で採取されたアイスコアに見いだされている。惑星間ダスト粒子は航空機を使って成層圏で採取されている。また、地球周回低軌道上の人工天体の表面への微隕石衝突が報告されている。これらの粒子の解析から、それらの起源とそれらの母天体についての情報を得ることができる。しかし、これまでの微隕石解析では地球由来の汚染の可能性が完全に除外できない。そこで、汚染のないかつ、できる限り破壊されていない微小隕石の捕集が望まれる。そのもっとも有望な採取法は、すでにスターダストミッション等で用いられているエアロゲルによる直接捕集であり、それにより捕集による破壊、変成の少ない微粒子の獲得が期待できる。

3.宇宙空間での有機化合物の捕集

多種多様な有機化合物が隕石(炭素質のコンドライト)と彗星のような地球外天体で見いだされてきた。ChybaとSaganは地球外天体に由来する100kt以上の炭素が地球に届けられたと推定している (Chyba & Sagan (1992))。実際に、アミノ酸や核酸塩基のような生物関連有機化合物が炭素質コンドライトの熱水抽出物内に見いだされている。複雑有機化合物は、ハレー彗星探索のための宇宙観測機に搭載された質量分析装置による直接的な分析でも見いだされた(Kissel & Krueger (1987))。スターダストミッションにより回収された彗星のちりの予備的な有機分析でもまた、Wild 2彗星コア(Standford et al. (2006))で複雑な有機化合物の存在が示された。我々は、TANPOPO プロジェクトの一部として、有機化合物の分析のために、IDPの捕集を提案する。

4.終わりに

ISS 上で生命の痕跡を直接検証しようという試みは、これまで無かった。この点で、TANPOPO はユニークな提案である。TANPOPO のコアグループは、エアロゲルの作製、細菌の分析、有機化合物分析と微小隕石分析においてすでに長い経験を有している。その上で国内外の研究グループと広く連携し、研究を推進する予定である。

参考文献

- Arrhenius, S. (1908) *Worlds in the Making-the Evolution of the Universe* (translation to English by H. Borns). Harper and Brothers Publishers, New York.
- Chyba, C. and C. Sagan (1992) Endogenous production, exogenous delivery and impact-shock synthesis of organic molecules: an inventory for the origins of life. *Nature* 355, 125-132.
- Crick, F. (1981) *Life Itself*. Simon & Schuster, New York.
- Kissel, J. and F. R. Krueger (1987) The organic component in dust from comet Halley as measured by the PUMA mass spectrometer on board Vega 1. *Nature* 326, 755-760.
- Sandford, S. A., Aléon J., Alexander, C. M. O'D., Araki, T., Bajt, S., Baratta, G. A., Borg, J., Bradley, J. P., Brownlee, D. E., Brucato, J. R., Burchell, M. J., Busemann, H., Butterworth, A., Clemett, S. J., Cody, G., Colangeli, L., Cooper, G., D'Hendecourt, L., Djouadi, Z., Dworkin, J. P., Ferrini, G., Fleckenstein, H., Flynn, G. J., Franchi, I. A., Fries, M., Gilles, M. K., Glavin, D. P., Gounelle, M., Grossemy, F., Jacobsen, C., Keller, L. P., Kilcoyne, A. L. D., Leitner, J., Matrajt, G., Meibom, A., Mennella, V., Mostefaoui, S., Nittler, L. R., Palumbo, M. E., Papanastassiou, D. A., Robert, F., Rotundi, A., Snead, C. J., Spencer, M. K., Stadermann, F. J., Steele, A., Stephan, T., Tsou, P., Tylliszczak, T., Westphal, A. J., Wirick, S., Wopenka, B., Yabuta, H., Zare, R. N., and Zolensky, M. E. (2006) Organics captured from comet 81P/Wild 2 by the stardust spacecraft. *Science* 314, 1720-1724.
- 山岸明彦、矢野創、奥平恭子、小林憲正、横堀伸一、田端誠、河合秀幸 (2007) TANPOPO:有機物と微生物の宇宙空間曝露と微隕石及び微生物の捕集実験。 *Biol. Sci. Space* 21: 67-75
- Yang, Y.-J., S. Itahashi, S.Yokobori and A. Yamagishi (2008a) UV-resistant Bacteria isolated at high altitude. *Biol. Scie. Space*. 22:18-25.
- Yang, Y.-J., S. Yokobori, J. Kawaguchi, T. Yamagami, I. Iijima, N. Izutsu, H. Fuke, Y. Saitoh, S. Matsuzaka, M. Namiki, S. Ohta, M. Toriumi, K. Yamada, M. Seo, & A. Yamagishi (2008b) Investigation of cultivable microorganisms in the stratosphere collected by using a balloon in 2005. JAXA-RR-08-001: 34-42
- Yang, Y.-J., T. Itoh, S. Yokobori, S. Itahashi, H. Shimada, K. Satoh, H. Ohba, I. Narumi, & A. Yamagishi (2009) *Deinococcus aereus* sp. nov., isolated from the high atmosphere. *Internatl. J. Syst. Evol. Bacteriol.* 59: 1862-1866
- Yang, Y.-J., T. Itoh, S. Yokobori, S. Itahashi, H. Shimada, K. Satoh, H. Ohba, I. Narumi, & A. Yamagishi (2010) *Deinococcus aetherius* sp. nov., isolated from the stratosphere. *Internatl. J. Syst. Evol. Bacteriol.* (in press)
- Yamagishi, A., H. Yano, K. Kobayashi, K. Kobayashi, S. Yokobori, M. Tabata, H. Kawai, M. Yamashita, H. Hashimoto, H. Naraoka, & H. Mita (2008) TANPOPO: astrobiology exposure and micrometeoroid capture experiments. *International Symposium on Space Technology and Science (ISTS) Web Paper Archives*. 2008-k-05.